

【兵庫神戸ポニーベースボールクラブ選手ステップチャート】

対象試合/期間： 2026年7月25日(土) 第11回福井嶺北野球大会 予選1回戦

	2	0	1	0	4	0	2		9
神戸	2	0	1	0	0	0	2		5

カテゴリ	評価項目	AT	Y.M (中3 男子) チェック	K.Y (中3 男子) チェック	R.S (中3 男子) チェック	K.T (中2 男子) チェック	T.H (中2 男子) チェック	K.M (中2 男子) チェック	T.S (中2 男子) チェック	K.I (中2 男子) チェック	T.O (中1 男子) チェック	
攻撃	初球フルスイング 強い球を放った積極的な姿勢。空振り・芯で捉えた打球OK	2	2			2	2	4	2		4	
	塁打 1塁打⇒① 2塁打⇒② 3塁打⇒③ 本塁打⇒④	1	3	3		1	1					
	打点 1打点⇒① 2打点⇒② 3打点⇒③ 4打点⇒④	1					1					
	盗塁	1	1				1					
	四死球	1	1	1				1	1	1	1	
	犠打 スライズ含む	3					6					
	進塁打 進塁打(犠打含む)の徹底	3				3			3			
	積極走塁 相手の隙(暴投・バズボール)を突いた果敢な走塁 外野手の緩慢な動きを突いての進塁	5	10						5			
守備	カバリングポイント 暴投や失策を見越したカバリングで進塁を防ぐ	5										
	ポジショニング 打球が飛ぶ前のポジショニング変更(指示含む) 一歩目のチャージ	2										
	アウトカウント 捕球アウト・捕球+送球アウト	2	4	4	2	4	14	4	2	2	2	
	アウトカウント 得点を防ぐ送球アウト(+5AT)	5				5		5				
貢献・姿勢	グラント環境整備 トンボかけやベース周りの整備を自ら完遂した	5										
	ベンチ内整理整頓 バットやヘルメットを常に真っ直ぐ並べ、次の打者が使いやすい環境を作った	5										
	作戦提案 相手の守備位置や癖をベンチで共有し、次の攻撃の作戦を具申した	5										
	ランナーコーチ ランナーへの的確な声出し・指示	5										
特別加点	代打・代走での初球からの積極的プレー	5										
	仲間のプレーに対する称賛・鼓舞	5		5								
規律	全力疾走の怠慢	-10										
	道具管理 自分の道具およびチームの道具を大切に扱ったか	-5										
	ボーンヘッド アウトカウントの間違ったサイン見落とし	-5	-10									
野手部門 TOTAL			11	13	2	15	25	14	13	3	7	0
投手	初球ストライク 投手の積極性を評価	2					14					
	先頭打者アウト インニングの先頭打者を確実に打ち取った	3					6					
	3球以内追い込み 3球以内に2ストライクを取った	2					10					
	投球指標 1インニング四死球ゼロ	3					3					
投手部門 TOTAL			0	0	0	0	33	0	0	0	0	0

試合記録・選手成長ステップチェックシート分析報告書

作成日: 2026年7月26日

記録者: 兵庫神戸ポニーベースボールクラブ 指導部

対象試合: 2026年7月25日（土） 第11回福井嶺北野球大会予選 1回戦

試合結果: 神戸ポニー 5 - 9（敗戦）

	2	0	1	0	4	0	2		9
神戸	2	0	1	0	0	0	2		5

1. 本資料の目的

本資料は、当クラブの指導方針である「考える野球（Thinking Baseball）」の浸透度と、実戦を通じた全選手への経験値付与の成果を検証するため、公式大会である「第11回福井嶺北野球大会予選1回戦」のデータを『選手成長ステップチェックシート』に基づき集計・分析したものである。5-9での敗戦となった本ゲームにおいて、公式戦特有のプレッシャーの中で発揮された成果と、守備・規律面を含めて明確になった課題を定量的に記録・保存し、チームの公式資産とすることを目的とする。

2. 部門別定量分析および成果

① 攻撃部門

1回表に2点、7回表に2点を奪うなど、試合の入りと土壇場の粘りを見せて合計5得点をマークした。

- 初球フルスイング（基準点:2点）：K.M選手（4点：2回分）とT.O選手（4点：2回分）が抜群の積極性を見せたほか、Y.M選手（2点）、K.T選手（2点）、T.H選手（2点）、T.S選手（2点）の計6名がきっちり加点を獲得し、チーム全体でストライクを逃さず振り抜くアプローチを体現した。
- 打点・長打・作戦遂行：Y.M選手（3点）とK.Y選手（3点）が最上級生として打撃・作戦面で打線を引っ張ったほか、K.T選手（1点）、T.H選手（1点）もそれぞれの役割を果たして着実にポイントを獲得し、得点へと結びつけた。

② 守備・貢献姿勢・規律部門（※戦況・球際分析の追加反映）

計9失点（1回裏2点、3回裏1点、5回裏4点、7回裏2点）を喫する苦しい防戦となったが、ライン全体で高い戦況把握と集中力を維持しようと努めた。

- 状況判断力（アウトカウント把握）：T.H選手が「14点（7回分）」という圧巻の数値を記録したほか、Y.M選手、K.Y選手、K.T選手、K.M選手がそれぞれ「4点（2回分）」、R.S選手、T.S選手、K.I選手、T.O選手がそれぞれ「2点（1回分）」を獲得し、出場選手ほぼ全員が頭を整理してプレイした。

- アウトカウント特別加点：守備面で特に優れた状況判断を見せたK.T選手に「+5点」、K.M選手に「+5点」の特別加点が付与された。
- 失点要因の構造分析（球際の「あと一歩」）：記録上の「失策（エラー）」ではないものの、失点場面の多くで内外野手の球際における「あと一歩」の寄り・チャージの遅れが見られた。このわずかな遅れによって相手打者走者に1つ余分な進塁（テイクワンベース）を許し、ピンチを広げて大量失点に直結した。今後のポジショニングの工夫と一歩目のスタート判断の徹底改善が急務である。
- 貢献・姿勢面（仲間の鼓舞）：K.Y選手が「仲間のプレーに対する称賛・鼓舞（5点）」を獲得。最上級生としてベンチ・グラウンドからチームの士気を高め続けた。
- 規律の厳格適用（ペナルティ減点）：Y.M選手に対して計-10点の減点が適用された。遊撃手として「投手への捕手からの返球に対するカバリング怠慢（-5点）」、および「打球がフライとなった際の全力疾走（走塁）の怠慢（-5点）」が記録され、公式戦における凡事徹底の甘さが課題として浮き彫りとなった。

③ 投手部門

本試合では T.H 選手が完投マウンドに立ち、投手部門でチームの全ポイントを叩き出した。

- T.H 選手（投手TOTAL 33点）：「初球ストライク（14点分）」、「3球以内追い込み（10点）」、「先頭打者アウト（6点）」、「投球指標（3点）」と全項目で高いパフォーマンスを発揮。9失点を喫したものの、マウンド上で逃げずにストライク先行のピッチングを貫き、投手部門33点の素晴らしいゲームメイクを見せた。

3. 個人別総獲得スコア一覧

選手名	野手 TOTAL	投手 TOTAL	総合 トータル スコア	備考・特記事項
T.H （中2 男子）	25点	33点	58点	【投打の絶対的大黒柱・総合MVP】完投で投手33点。野手でもアウトカウント把握14点（7回分）、初球フル2点、作戦遂行等1点など隙のない集中力を発揮。
K.T （中2 男子）	15点	0点	15点	【守備の要&勝負強さ】アウトカウント把握4点に加え、特別加点+5点を獲得。初球フル2点や作戦遂行1点を含め、攻守で高い判断力を提示。

K.M (中2 男子)	14点	0点	14点	【積極打撃&守備評価】 初球フルスイング4点（2回分）でアグレッションを体現。守備でもアウトカウント把握4点&特別加点+5点を獲得しチームに貢献。
K.Y (中3 男子)	13点	0点	13点	【最上級生のキャプテンシー】 仲間への鼓舞・称賛（5点）でチームの士気を牽引。打点・作戦遂行（3点）、アウトカウント把握4点と攻守で存在感。
T.S (中2 男子)	13点	0点	13点	【堅実なプレイと前進】 初球フルスイング（2点）、アウトカウント把握（2点）を含め野手13点を手堅く獲得。チームの土台を支える働き。
Y.M (中3 男子)	11点	0点	11点	【攻打の主軸&猛省課題】 作戦遂行等（3点）、初球フル（2点）、アウトカウント把握（4点）で貢献も、**カバーリング怠慢（-5点）と全力疾走怠慢（-5点）**を次回への糧に。
T.O (中1 男子)	7点	0点	7点	【ジュニア層の頼もしい躍動】 大会のプレッシャーの中で初球フルスイング4点（2回分）、アウトカウント把握（2点）を獲得。堂々たるプレイを披露。
K.I (中2 男子)	3点	0点	3点	【出場の足跡とチーム貢献】 アウトカウント把握（2点）をはじめ、グラウンド上で頭を整理してプレイし野手3点をマーク。

R.S (中3 男子)	2点	0点	2点	【守備意識の維持】 最上級生としてアウトカウント把握（2点）を確実にマークし、ディフェンス面でチームを支える。
--------------------------	-----------	----	-----------	---

4. 指導部総括

公式大会の予選1回戦という重圧がかかる舞台において、最終スコア5-9での敗戦は悔しい結果となったが、当クラブが追求する「考える野球（Thinking Baseball）」の足跡と、今後克服すべき極めて具体的な守備・規律課題が浮き彫りになった一戦であった。

マウンドを守り抜いた **T.H 選手（総合58点）** は、投手部門で33点を荒稼ぎする堂々たるピッチングを披露。野手としても「アウトカウント把握：14点（7回分）」という完璧な集中力を維持し、投打にわたってチームの絶対的主軸として君臨した。また守備面では、**K.T 選手** と **K.M 選手** の2名が「アウトカウント把握：4点」に加えて「特別加点：+5点」を獲得するなど、ピンチでの高い状況判断を見せた。

攻撃面では、最上級生の **Y.M 選手** と **K.Y 選手**（共に作戦遂行等3点）が打線を牽引し、**K.M 選手** と **T.O 選手** の初球フル2回（各4点分）をはじめ計6名が初球から振り抜く姿勢を見せて5得点を生み出した。**K.Y 選手** が見せた仲間への鼓舞（5点）も、チームの士気を支える大きな力となった。

しかし、本試合の9失点を猛省する上で避けて通れないのが「球際における『あと一歩』の遅れ」と「規律の徹底（Y.M選手：計-10点）」である。

失点シーンを紐解くと、記録上のエラーではないものの、内外野手の球際での切り返しやダッシュの「あと一歩」が届かず、相手打者走者に余分な進塁を許してピンチを自ら広げてしまっていた。これは単なる体力・身体能力の問題ではなく、「打者やカウントに応じたポジションニングの工夫」や「打球に対する一歩目のスタート速度（予想と準備）」を高めることで確実に防げる失点である。まさに「考える野球（Thinking Baseball）」をディフェンス面で体現できるかどうかの分かれ道と言える。

さらに、**Y.M 選手**のカバーリング怠慢および全力疾走怠慢（計-10点）に象徴される「凡事徹底の甘さ」も一球の重み・一歩の重みに繋がっている。

この敗戦を無駄にせず、「打球への一歩目」「1つ先の塁を与えない守備」「100%の疾走とカバーリング」を次の練習から徹底的に追求し、次なる公式戦での雪辱に向けてチーム一丸でブラッシュアップを図っていこう。